

第4次いづみおおつ健康食育計画（案）に対する パブリックコメントの結果について（報告）

- 1 募集期間 令和6年12月10日（火）から令和7年1月10日（金）まで
- 2 提出方法 郵送、ファクス、電子メールまたは閲覧場所に設置した意見提出箱に投函
- 3 提出人数 6人
- 4 提出件数 8件

5 意見概要及び市の考え方

No	意見・提言の概要	市の考え方
1	【計画全般について】 <ul style="list-style-type: none">・とても素晴らしい計画案だと思う。該当する世代に可能な限り伝えられるように、それぞれの部署間での連携や細かいプログラムなどを検討してもらいたい。	<ul style="list-style-type: none">・本計画は府内関係部署及び関係団体との協働により推進していく計画です。計画策定後には各部署・団体での共有を行うとともに、各年代に応じた情報発信の方法などを工夫し、市民への周知を図ってまいります。
2	【健康寿命について】 <ul style="list-style-type: none">・本計画は国及び府の計画に対応した内容のことであるが、これらの計画に記載の現在の健康寿命と本計画の記載が異なっている。健康寿命の定義は統一すべきと考える。	<ul style="list-style-type: none">・国及び大阪府の計画では、国民生活基礎調査の結果から算出する健康寿命（日常生活に制限のない期間）を用いていますが、市町村単位では算出することができません。そのため本市の計画では、大阪府から情報提供のあった、介護認定者数から市町村単位で算出することのできる健康寿命（日常生活動作が自立している期間）を用い、国及び大阪府と本市の状況を掲載しております。

No	意見・提言の概要	市の考え方
3	<p>【食育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育への関心度が子ども・成人ともに高まっているのは素晴らしいが、個人差もあると思うので、さらに関心度を高める運動を行っていただきたい。特に、子どものときの食育が大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の健康な身体づくりには、妊娠期（胎児期）からライフコースアプローチを見据えた切れ目のない食育を推進し、食育への関心度を高めることが重要です。そのため、妊婦に栄養価の高いお米を提供するマタニティ応援プロジェクトや、親子参加型の食の体験活動、身体に良い食材を使用した給食の提供、一日に必要な野菜を使った料理教室など、各年代に応じた具体的な取り組みを推進しております。今後も、これらの取り組みを進めるとともに、子ども向けの食育通信や健康レシピの提供など、食に関する情報発信に努め、関係機関と連携して食育の推進に努めてまいります。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・各年代での食育指導をどのように行うのか具体的な提案が必要だと思う。 <p>病気にならない予防対策としての意識向上につなげられる具体的な食事の内容、メニューを作って、食事のとり方を理解してもらえるような形で拡げることができればと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画における取組の指標項目の設定につきましては、計画の基本目標である、生活の質の向上、健康寿命の延伸が達成できるよう、国府の計画目標や前計画からの達成状況、基本方針を踏まえ、取組ごとの数値設定ではなく、計画全体の達成状況が把握できるよう設定しております。あしゆびプロジェクトの指標につきましては、認知度だけでなく、主観的健康観や身体の不調、運動習慣などの指標とも関連させ、評価していきたいと考えております。また、あしゆび力測定の実施などを通して、取組の認知度を向上させることは、健康づくりに关心を持ち、取り組む人を増やすことにつながるため、第3次計画から引き続き同指標を設定しております。今後もPDCAサイクルを活用し、計画の進捗管理と目標達成に努めてまいります。
5	<p>【目標値の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命の延伸という目標は、ぜひ進めてもらいたい。計画の中で、泉大津市独自の特徴は、あしゆびプロジェクトと金芽米の推進と読み取ったが、これらの取組の数値目標はあしゆびの認知度向上が挙げられているのみ。あしゆびについては第3次計画でも推進されているので、健康に関する指標として表せられるデータがあればより説得力が増すと考える。進捗管理としてPDCAを行うにあたっても、各取組に健康寿命と関連する数値目標を掲げた方が検証しやすいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画における取組の指標項目の設定につきましては、計画の基本目標である、生活の質の向上、健康寿命の延伸が達成できるよう、国府の計画目標や前計画からの達成状況、基本方針を踏まえ、取組ごとの数値設定ではなく、計画全体の達成状況が把握できるよう設定しております。あしゆびプロジェクトの指標につきましては、認知度だけでなく、主観的健康観や身体の不調、運動習慣などの指標とも関連させ、評価していきたいと考えております。また、あしゆび力測定の実施などを通して、取組の認知度を向上させることは、健康づくりに关心を持ち、取り組む人を増やすことにつながるため、第3次計画から引き続き同指標を設定しております。今後もPDCAサイクルを活用し、計画の進捗管理と目標達成に努めてまいります。

No	意見・提言の概要	市の考え方
6	<p>【喫煙について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の役割について「禁煙に取り組む」とあるが、やめたい人とすべきであり、喫煙者に強制させるようなものとすべきではないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙につきましては、行為自体を否定するものではなく、一定の喫煙マナーにより、喫煙をする人としない人がお互いに心地よく安全かつ安心で健康な生活を送っていただくことが重要だと考えております。しかし、喫煙は、がんをはじめ脳卒中や心臓病など多くの病気のリスク因子になると指摘されていることから、引き続き健康に与える影響や禁煙についての啓発に取り組んでまいりたいと考えております。
7	<p>【喫煙について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 青・壮年期における喫煙の目標値についてはどのように算出したのか。算出根拠を教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青・壮年期喫煙率の目標値につきましては、習慣的に喫煙している者のうち、たばこをやめたいと思う者の割合が24.1%であったことを踏まえ、到達可能な目標値として、男性は25%、女性は7%と設定しております。
8	<p>【介護・医療費用の適正化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の波は、行政・福祉・医療など様々なサービスに影響が及ぶ。これからは今までのような経済成長は見込めず、税収入も頭打ちや減少することを考えて予算配分を検討する必要がある。特に、後期高齢者の介護・医療費用の適正化が求められる。本人にとって必要なことか判断する場があれば、過重診療はなくせるのではないか。現実はとても難しいことだが、考えるところだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市においても少子高齢化が進む中で、要介護認定や医療費の増加が課題になっており、医療費の適正化を図るため、医療機関等と連携し、後発医薬品の普及啓発や重複服薬者健康相談事業に取り組んでおります。また、病気になる前の段階（未病）からの健康づくりに取り組むことが重要と考え、フレイルチェックなど健康状態の見える化や認知症等の予防対策や未病予防対策にも取り組んでおります。 なお、介護保険事業については、「泉大津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、円滑・適正な運営に向け、ケアプランの点検など介護給付適正化のより一層の推進に努めてまいります。